

編集委員報告

とこすみ よしふみ
佳住 嘉文

放射能汚染 対応遅い行政

「怒るよりあきれた。大外だった。「私有地内の問
都市横浜にしてこのレベル。測ろうにも」測ろうにも
かと思つた」。以前、札幌には測定器がない。行政は他に忙しかつて大変な
男性が、自宅マンション周辺の放射能汚染を市に通報
したのは8月25日。マンション屋上や通学路の土砂から
最高10万Bqのセシウムを計測した。セシウムは、放射能汚染物扱いとなる8000Bqの12倍超。ほかにも
猛毒のストロンチウムを195Bq検出した。

だが、市が初めて現場に行ったのは9月12日。通報3台しかなかった。分析を頼む検査機関も予約いっぱいだった。
対応した職員の中にも札幌の大学OBがいた。「確かに高度な測定器は全市で3台しかなかった。分析を頼む検査機関も予約いっぱいだった」
明治の場合、粉ミルクからセシウムを検出したと発表したのは12月6日だ。だが消費者から最初に問い合わせがあったのは11月14日。「インターネットに市

■測定器がない
男性によると、通報先の市健康福祉局の対応は想定



横浜の放射能汚染を測った同位体研究所の分析装置

市民が検査し通報 ▶ 除染対策発表まで3週間超



初めて報道陣に公開された東京電力福島第1原発。右手前から大破した4号機と3号機、水色の建屋が残る2号機＝11月12日（代表撮影）

民団体が20Bq検出したと出た。ネットを見ると、「検査結果を取りまめ中、とあった。月一回の自社検査で異常がなかったこともあり問題なしと判断した」（同社広報）。

■企業も出遅れ
28日になって「取りまめ確定」とネットで騒ぎが広がる。問い合わせは10件近く。ここで初めて「確実な情報、気になる情報を得た」として検査を決めた。同社はいう。暫定規制値内

背景に「事なかれ主義」

とはいえ30Bqのセシウムを検出し12月6日、希望者には商品を交換すると発表した。「時間がかったと言われるが、もし飲めなくなるとお母さんたちが混乱する。高精度の検査後、判断しように考えた」（同）

市民団体のこうした自主検査は急増する一方だ。汚染は深刻ではないとして、行政が検査に消極的な事が拍車をかける。

ことはいわゆる「事なかれ主義」
実際、白黒判定は難しい。横浜のストロンチウム汚染には文部科学省が参戦した。住民や市の検出方法は天然鉛などの放射線を扱うとして、別の方法で周辺の土砂を検査し「問題なし」とした。ただ、マンション屋上の土砂を測っていない。セシウムはやはり異常に高かった。

■危険性把握を
住民と市の検査を受託した検査業、同位体研究所横浜の瑞章社長は一連の出来事を踏まえてこう言う。「文科省はいわば大学病院。私たちは町医者。町医者はまず迅速に現場のリスクを調べ、危なそうだったら大学病院へ送る。それで異常ならよかったら、現場で起きていることは、汚染地の移動。台風の大雨や風で放射性物質が流され、昨日までの汚染地が低汚染地に、非汚染地が汚染地に変わっている。個別の測定がますます重要になっている。住民の生命がかかっている」

セシウム、ストロンチウム、横浜で検出されたのは、セシウム134、137とストロンチウム90、91。放射能が半分に減る半減期はそれぞれ長く、セシウム137が30年、134が2年、ストロンチウム90は29年、89は50日。セシウムが筋肉にたまりやすいのに対しストロンチウムは骨に集まりやすい。内部被ばくで腫瘍の原因となる。
自然界にはほとんど存在せず、戦後の核実験や旧ソ連のチェルノブイリ原発事故で大気中に放出された。